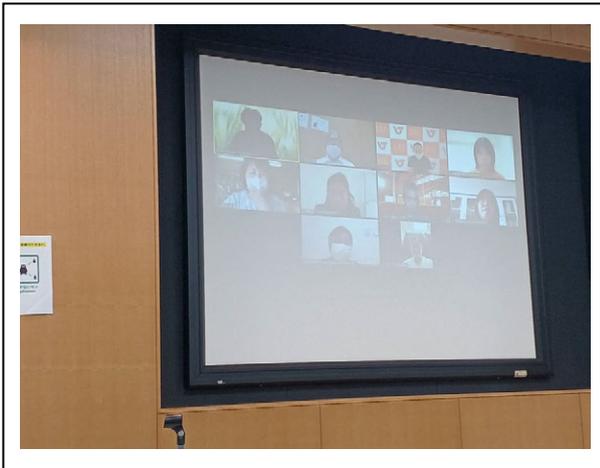


事業報告書

| | | | | | | | | | |
|--------------------|--|-----|-----|-----------|----|--------------------|----|--------------------|----|
| 1 支援団体名 | 日本ゆたかなまちづくり研究会 | | | | | | | | |
| 2 事業名称 | 「令和2年7月豪雨」から復興の今、まちづくりの課題と防災を考える | | | | | | | | |
| 3 実施日時 | 令和4年9月8日(木)14:00~15:30 | | | | | | | | |
| 4 実施場所 | くまもと県民交流館パレア (熊本市中央区手取本町8-9 テトリアくまもとビル 会議室2) | | | | | | | | |
| 5 事業目的、内容及びその効果 | <p>(事業実施状況・内容)</p> <p>人吉と熊本をリモートで結んで、豪雨災害の当時の状況と現状の復帰の様子は人吉から報告、今後のまちづくりの課題については人吉と熊本の間で討論を行った。人吉からの報告では、あらためて、豪雨災害時の人吉の惨状を写真で目の当たりにした。また、2年が過ぎても、災害の爪痕が、まだまだ残っている様子も人吉から報告され、熊本の参加者からは、ため息が漏れていた。人吉と熊本の間で、今後のまちづくりの討論となったが、災害に強いまちづくりを今回の豪雨災害を教訓として、いかに作り上げるかという課題が、詰まるところとなった。</p> <p>(事業実施効果)</p> <p>今回の豪雨災害を教訓として、自然災害からいかに命を守るのかを、第一義とするべきであるとの結論となった。まずは、命を守ることであり、命があればこそ、復興が成し遂げられることになる。豪雨災害からの今後のまちづくりの課題は、守り抜いた命を復興にいかに役立てることができるのかと言うことに尽きる。実際に、命の危険を体験した人吉の皆様のお話を拝聴することで、物理的な復興の前に、まず命を守り抜くことの大切さが、ひしひしと今回の事業を通して、熊本にも伝わってきたことが大きな効果と言える。</p> | | | | | | | | |
| 6 参加内訳 | <table border="1"> <tr> <td>総人数</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>(1) 主催者参加</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>(2) 日本人参加 ((1)を除く)</td> <td>4名</td> </tr> <tr> <td>(3) 外国人参加 ((1)を除く)</td> <td>5名</td> </tr> </table> | 総人数 | 14名 | (1) 主催者参加 | 5名 | (2) 日本人参加 ((1)を除く) | 4名 | (3) 外国人参加 ((1)を除く) | 5名 |
| 総人数 | 14名 | | | | | | | | |
| (1) 主催者参加 | 5名 | | | | | | | | |
| (2) 日本人参加 ((1)を除く) | 4名 | | | | | | | | |
| (3) 外国人参加 ((1)を除く) | 5名 | | | | | | | | |
| 7 今後の方針 | <p>今回の事業の参加者には、中国からの方もおられて、中国で自然災害が発生したならば、日本とは桁違いになるとの指摘があった。人吉の豪雨被害の教訓は、中国に住む参加者にも衝撃を与えたようである。今後は、この機会に海外の自然災害についても目を向けて、われわれの団体で支援等ができるようであれば、役立ちたいと考えている。</p> | | | | | | | | |

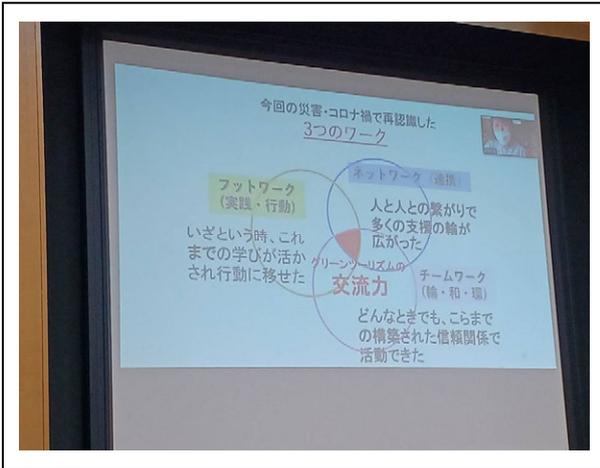
参加者の挨拶



避難所の様子



被災後に大切なこと



熊本から人吉へのエール



記念写真



熊本日新聞掲載記事 (2022/9/9)

